

夢合延壽袋 全



神氣物不感し能く夢を為
す。故に靈夢あり瑞夢あり吉
凶禍福。豈其兆無しと云ふ
べし似たり。又夢を五輪の類
にたりと云ふ。揉み所も世に雜夢
と指し言ふこと此と様云ふ
夢合といふも。若夢なりと云ふ
慾を

過す。人々諍ふ時ハ。吉も亦多し。其
 凶と知り。惡業を身より切ら戒め情
 之。徳を修むるを以テ。福を積むる
 福成す。その理由無かるべし。其
 福も則此業を弄み。亦可なり。其
 其やと云ふ。

醉夢道人誌


以免あはせぬ徳く

ふト心ニウマチビ 十一頁

矢心月野人 十二頁

神佛堂塔墓 十三頁

地震雷雪雨大風 十四頁

海川船筏橋 十五頁

多山 休 洞 穴 接 石
共丁目

新 宮 後 野 山 風 園 虚 空
共八目

雲 霞 霧 虹 稻 妻
共丁目

耕 地 井 戸 家 地 基 於 基
共丁目

勝 負 道 具 雜 祭 儀 儀 擲
共五目

酒 宴 盃 托 所 青 曲 魁 杓
共八目

花 木 竹 菜 青 物
共三目

肴 鳥 獸 蛇 虫
共二目

雜 的 部
あつちのあつちくさあぐのあを
おあなくつまぶくふのする
共六目

髮 現 幻 乃 で ん
共七目

あー き ぬ 花 を け す で ん
共七目

あ い ゆ め を き け る で ん
共七目

あ の め を し め お る で ん
共七目

縁つゝかきぬふれぬしゝん 辛巳目

よるゝ縁くまぬ人縁縁たるん 右同丁

何時おももちかく見せたるん 右同丁

心愛の傳 霊愛 密愛 虚愛

雜愛 右のうらみおもふくちまふかたむしむ
はく年中ふるひちのみちまふくちまふかたむしむ 辛巳目

身運愛 けしんくちまふかたむしむ
はくちまふかたむしむ 辛巳目

切のうらみ きりこのうらみ
はくちまふかたむしむ 目錄終

安部清明八卦占

男見女見とのふあひのうらの縁ふのぞきあつちえきあつちえ外あつちえ何あつちえみ

ても一切あつちえのうらみうらみいんえんとあひのよとまふすまひのち

▲月のうらみ ▲日のうらみ ▲時のうらみ ▲年のうらみ

右のワツの教チをあらせハツマもくあつちえもくあつちえらあつちえくあつちえ

のうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ

えそちのうらみうらみうらみの年チをうらみうらみうらみうらみうらみ

うらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ

月一からくみらういふひあぐり一十年ふ上二宮え

きん月うむらうりうきひ

① 乾の健る萬物資始るの意あり

はあふあうりけり男如とのふ一切のりみりてをせ

は令一きり一きりき徳の方ふ十分うり一

あまの又伸え午の人ああまのりおきり

あまの申物りをするも八九日と心けり

もうちをふす人一ふまうせうみりて十分

せん我をふまうせとあまのふとまかえり

さぬびあり十ぬ候八まんをえん

あまののぞきりあまのふなうり

まらんあまきまらる

あまらまらるあまらる

あまひりあまびりあまらる

あまのあまのあまのあまのあまの

② 兌の喜の興るの卦も言ありと

あまの意あり

はあふあうりけり男如とのふをん

あつふふらうむとあひだり一物もは合ふ一あし
よそのをするふか利らんく一昨日の世にハッよう番
おツまをするふらうづし一切の事あたまこふ利
らんあつふらう一日の世の義難めてええあるぞ一
不動をえんぶと一

▲後々ののぞき一物もは合ふらうづしよすある

▲ふせいの葉むのちふありまをてららぬ一

▲すぢ人のあつらきあり

▲アオひるふ十み七八あやう一

▲旅まがたあり▲せえん舎あつたしむづ一

三  離の秋葉風ふ飄るの意あり

は卦ふあつらふとまな男女ともちドめあつらみする
一切は合ふ一あし中ごろみするふかすとしさあづげ
ありさまをまづ一代えの卦あればらう旅はけく
あつらふふ世のむえんぶとさうのち一日の世にハッよう
ハッまをむひますハッよう番ハッまをむひてえら
うすべて一切の事あつらう一日の世の心あつたせむこ
をすまつとて一

▲ 震のひのぞきすに ちそく 大まふるのみあり

▲ ちそくの入りぬるをすくめぬあり 後有人あり

▲ ちらん中途の途のあつて ちんば 後

▲ やまひのすくすに ちんば あり

四 震の祥福ありて 繁昌の卦され 其声ありて

形あるの意あり

▲ け卦ありて 男女のふるをば ちんば あり

▲ ちんばありて ちんば あり

▲ 一切のちんばのちんばありて ちんば あり

▲ ちんばありて ちんば あり

▲ ちんばありて ちんば あり

▲ ちんばありて ちんば あり

▲ ちんばありて ちんば あり

▲ ちんばありて ちんば あり

▲ やまひのすくすに ちんば あり

五 巽の順あり 萬貫通達の意あり

▲ け卦ありて ちんば あり

▲ ちんばありて ちんば あり

えんろうま^{あか}ー 一日のゆ^{とた}残つふも^{あけ}明^{あけ}六ツよりハッ
ゆませのち^とあ^とる^とふ^とか^とう^とろ^とグ^とー 移^とる^とひ^との^とぞ^とき^とろ^と
その^とろ^とろ^と何^とも^とい^とも^とな^とで^とす^とる^とろ^とー 剛^と一^と日^との^とゆ^とめ^と
ら^とろ^とあ^とせ^とあ^とる^とま^とい^とと^とえ^とん^とぐ^とあ^とる^とど^とー 小^とげ^とん^とあ^とら^とつ^とと^と
えん^とど^とー

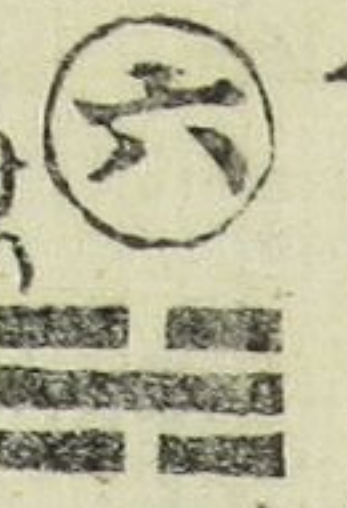
▲移^とる^とひ^との^とぞ^とみる^とろ^とま^とひ

▲え^とん^とど^とろ^とあ^とん^とを^とう^とろ^とど^とー

▲^とろ^とろ^とあ^との^とろ^とあ^とる^とお^とじ^とあ^とる^との^とゆ^とめ^とあ^とる^とる^と

▲ま^とち^とん^とあ^とる^とど^とー ▲せ^とま^とん^との^とあ^とし^と

▲や^とま^とひ^との^とろ^とあ^とる^とど^とー ま^とじ^とあ^とる^とど^とー



六 坎^との^と陥^とま^とる^と室^とを^との^とせて^と船^とを^と破^とる^との^と意^とあ^とり

け^とあ^とる^とあ^とる^とと^とた^との^と男^と女^とと^との^とあ^と一^と切^との^とろ^とあ^とる^とあ^とる^と
ま^と残^とれ^とし^とむ^とど^とー 中^とろ^とろ^との^とあ^とん^とど^とは^とあ^とる^とせ^とー

一^と日^との^とと^とた^との^とゆ^とめ^とハ^とッ^とど^とた^とま^とせ^との^と一^と切^とろ^とろ^とあ^とる^と

と^との^とあ^とと^とあ^とる^とど^とー 家^とど^とろ^とも^と中^との^と十^と月^と十^と日^とよ^とり^とあ^とる^と

ま^とで^との^とあ^とひ^とど^とよ^とろ^とし^とせ^とん^とど^とよ^とろ^とえ^とん^とあ^とる^とま^との^と人^と子^とあ^とる^と

ま^とろ^とあ^とる^とど^とー

▲移^とる^とひ^との^とぞ^とま^とい^との^とむ^とた^との^とろ^とあ^とる^とま^とひ

▲ 家ごちちん 長き

▲ うせいの 雨のこ 氷をん ありぬぐー

▲ まちん ありぬぐ あり来さるべ

▲ 生さん ありぬぐ ありぬぐー

▲ 中まの ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐー

七 艮の止まるふ 宜しく 進む 損あり 葛藤

身を纏ふ意あり

ひ ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐー

する ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐー

えつ ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐー

▲ 徳の ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐー

▲ うせいの ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐー

▲ 病の ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐー

▲ まの ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐー

▲ けさん ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐー

八 坤の地の徳ありて 萬物を 生養するの意あり

ひ ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐ ありぬぐー

すもろのむねに利えんすは目入の人とおん
とすむがゆりゆりゆりゆりのひまき秘徳をあらん
天乃天日賀まつりて

▲秘ののぞと長たのるふすくーあはし

▲うせものあおのうけららぬじまらふあ

▲さびざらちー先登ーのちかー

▲せさんころまふかやす

▲まらんあぶせまじあまき来らるる

▲あまのりまのくまあまのあんぐあて

安部 清明 夢合延壽袋大成

▲かごをゆりふをさか貴人も佳の人みよりあが

ら世秘のひのぞみかららるのまふけふよけて

あふりせむがき佳のおちの中あふかんい

このみあては命たまふとーと世中一のあふとも

かど親けいのるよりゆけちかくんるる又かまあ

あまきまげりる残るまむるあつらうくをたけあ

まひまのは命とー又あまの山あのはのつる

ふまがたをいどもさぐらうむをばらうかーあそー又
ままのゆーせうふうふらうあひの結さん乃
かー^{あひのゆ}藤園きうつらゆめゆーとるるとたかま
あふーてようこびりちすーありまがらは合はし
▲^{ままのゆ}ままゆふまがはたまあうまうまあ町人
百中うの利進をまてをいどは合うーとまがら二の
ままのこびりこがーあすうとるうまのあふ合せ
うとまがは合たまふーままのまがらいつと
るゆめがひま^{あひの}ままのまがらあひくあふ入る

うたがひのー又まがらうちあふとらうとままあふ
とまやうとまままがまてと合は合はうらいつと
あるなー又まままままままままままままま
又まがらままままままままままままままま
かまがまが利らんあーまがらままままままま
▲^{ままのゆ}ままのまままままままままままままま
ままのまままままままままままままままま
ままのまままままままままままままままま
ままのまままままままままままままままま
ままのまままままままままままままままま
ままのまままままままままままままままま
ままのまままままままままままままままま
ままのまままままままままままままままま

ままのまま

まま

とさういふ^{いふ}の国よとあまりうたさの^{いふ}まじらふん
あまり世とあまら^{いふ}ん^{いふ}天々^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}神^{いふ}成^{いふ}まう^{いふ}と^{いふ}は
▲神^{いふ}は^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}と^{いふ}と^{いふ}又^{いふ}の^{いふ}ま^{いふ}お^{いふ}と^{いふ}人^{いふ}成
あけてまうると^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}も^{いふ}お^{いふ}成^{いふ}の^{いふ}く^{いふ}な^{いふ}す
と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}ひ^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と
如^{いふ}ん^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と
す^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と
▲^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と
ふ^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と

あるが^{いふ}—ある^{いふ}—あ^{いふ}が^{いふ}出^{いふ}家^{いふ}出^{いふ}つ^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と
▲そ^{いふ}う^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と
ぬ^{いふ}—^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と
そ^{いふ}う^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と
清^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と
と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と
▲^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と
い^{いふ}男^{いふ}女^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と^{いふ}の^{いふ}成^{いふ}成^{いふ}と

りてはかゝるうすといふくひごゝのらうや
 りのめいざりてはのせはけりかたゝゝゝ
 あがゝ^い君^い君^いの思^いあつたかろうま人のいんあゝ
 るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 へうろくそなはさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ざゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 りあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 だゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 年^{ねん}忌^ぎはのぞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 すとえらう文の月すら月すらとすとあふら
 とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 口けとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 りの縁^{ゆかり}びどゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 りのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 一切けがゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とを思ふほどに河の事をあーく社会より女人
出家のうらーくすけーくみてー

▲うみ川よりぎくずやうけぬらうとら河の男女
たふ社会大きよりーこけて室あつるればは民
ふそ年トのうららめくたうく紙あつるやあどー
そのう入一切の縁びひどやうト也すまやうくひあー
らーとく種あつくまつやとー又かうけあまや
ゆくとく思ふ事あーとく利とくあつすくあー

▲大船の沖よりやとら河の事あつるあまや

あつちあつちほいてあづくふるを合てすべー考んぐ
の考とあんだんくふよふいひひ思ふあまんぐの
くふこぬけあまはけーしむぞー

▲やうの船中縁がまふの空てたのーみほとら河の
だんどちやすまが利うんとあつるあまをけま
すあやーと利うんすくあーそのわら一切の船あ
のうとららもすあまあーこーあふのうとら
ばらあまえすくぐん又ちあふあふのせしとら河の
あつふとら河にけらふだぬあぬあつるあまや

▲うみ川のなまをへてなまを海にまきす
うみぬの中をへてなまを海にまきす

▲海川のなまをへてなまを海にまきす
海川のなまをへてなまを海にまきす

▲公人の目をつらぬくはなまを海にまきす
公人の目をつらぬくはなまを海にまきす

▲社会十をへてなまを海にまきす
社会十をへてなまを海にまきす

▲大氷出で川とあひまを海にまきす
大氷出で川とあひまを海にまきす

▲女の名をへてなまを海にまきす
女の名をへてなまを海にまきす

▲大川のなまをへてなまを海にまきす
大川のなまをへてなまを海にまきす

▲中をへてなまを海にまきす
中をへてなまを海にまきす

▲又土農上
又土農上

世合を人なりと見えたりとて能くしるひあり
 なくと仕合なりとあり一切のつとよみ
 してくる様すべしとありてそのやみす
 うび大らく其やみ様まらむとありて
 下より一毎のそのとむがむとありて
 ▲一人となく強むの土地をみる又ハある地遠
 國へゆくといふもふるけの親子を分すてん
 る中ありその人のちうとあるをましんふふ
 きたうとありてあるをこころとありて

きたうとありてあるをこころとありて
 ▲大のまびやむ中ふありて日もてふありて
 くとして其地もこころとありて
 老人らぐくとありてとありてとありて
 をありてとありてとありてとありて
 ありてとありてとありてとありて
 つらありてとありてとありてとありて
 ありてとありてとありてとありて
 とありてとありてとありてとありて

い合大所

十

あすあのみまはまへく〜
 あ〜^{いんげん}のぬきとりのうら〜
 くら〜
 うら〜とひとをあらくといふふ〜
 くら〜あ〜あ〜あ〜
 とこのやうら〜

▲男女ともおれがけお出〜
 まあめのはる〜
 多くぬありめ持〜

むん〜
 とある〜
 ▲ひろいお〜
 くら〜
 くら〜
 くら〜

いんげん

三

▲大ききもの形系ふ大本一軒あるところせび一切の言ふ
 我身一人よくせくろう人せず他人の助ちよ力ちよすく
 ありてりあがうおどころあづふとせをさま
 とまひす人おひつりてびるまき又はあふ
 のおるとる射らうおせえあぐんうらのる
 ようにぬいげあふるおあひらひくらくせら
 としむる一のんどもおけんやううと一んとて
 ▲らんたあふがうせんとてわらり又ハヤみの病お
 うせしくとあてとあくあることせえふらる

ハ男女ともおくろうたへず一切のものをあぐ
 をんどえ合くとすべ一六日八時を一とせすれ
 ばだんくは合まきりのちか
 ▲さるし例よりあつるところ又ハこころとあつくと
 いんふとせび男女ともあつらうさだめいんをんど
 そんのうま一ふだんこの毛をそあつふすま
 さるし例とせまきんらん人するせえすらん
 のおあつておまのせはあつらあつらあつら
 てあつてお一とせ一とせ

▲馬や牛や又ハ猪まの三のぶらしてはたふふもが
一切のゆりもすむすむ一々のびふあるとまへ人
のそねとねびみあつてくよこあひのこねてび
あせこけくちうこつ人いさふよううしび
さうけふるもまがー天まへ強いのまへくし
▲あくのうすみとるとはたふもあつていそ
くまらー一切のゆりもあつてくところ
まがふすあつてくしお利うんをあるあつて
うーたんまのりお利うんまーくみまてし

▲虫むしとてはふふえあつて一切のゆりもあつてくところ
大きふ削うんあを賣うののあくうまをうー
のの二日のあつてくしとむまびうあつてく
のうまーまらびやうんあをまらうしとす
がー大病人のあやうー大さつとあるんー
▲稲いな葉はあつてくしとあつてくしとあつてくしと
きらぬを利とくとあつてくしとあつてくしと
りやうくとこのひ浪なみ人のあつてくしとあつてくしと
あつてくしとあつてくしとあつてくしとあつてくしと
あつてくしとあつてくしとあつてくしとあつてくしと

カウ全集

人々をいかにせんするも(後)百姓の元相
 ▲田うかう地のいしむきよふにむづいふとみさる人うらづ
 は合よりこつた女よふて入るんづたするあう女
 人のまくりのいんせんすづーすんく田う人乃
 け先ん一切のりよく畑ひす人をどきあるとまき
 ▲田うこの極のあげさみのせらるていせいせんふ
 えむが男女とのりあうらげは合よくみせんせん
 じゅうくしてす人らむいふるとまきー氷結せむてはし
 ▲穉を新をむづいふとまきう又いふあうらむいふて

のこのせつら候とのりいどるるけの男女とのりふ利
 うとまきくうらげは合よりけを我が家の内
 (持をむづとまきむゆたうらふていひあうら
 こびあるとまきー
 ▲一切のし孫をすくといせをふるるとまきんをんトふ
 家強つけらぬうらうらうせらむとまきトのけた
 合中をもおちらうらふすべーあうくひんぐん
 きふするもむらむらむらーいひて女人の身持候
 大世のあうてなすのりけらうらの孫がひ

トゆるトゆるトす人など社会より又百一やう
 のちやらうらふひえんくさるえんをあたふ
 けの万社会よりけしとみひらぐえんくさる
 さうくういばふせむおひるまふらうらう
 ありけしとす

▲葉山はつやま引ひ板いたとせむふ思おものけんもう後ごのちの
 氏うぢとあぐさんえんのふらうくと決けつんんうらとび
 ありぐさお葉は山やまの風かぜありぐさひらびく
 ぐさいひくふらうらうらうらうのうらう

うく子孫こそんをんじやうとて武ぶえん長なが久ひさ也なりりつとも
 四よんとのふいひ先まへをさうけのちもつ目めの紙かみあり
 ひらぐーありすし先まへえちうーあぐさはるなつあき
 九月くがつのひ先まへのちもつ目めの紙かみあり
 えるひ先まへのちもつ目めの紙かみあり
 のちもつ目めの紙かみあり
 ありすうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 めのうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 おふそくするらうらうらうらうらうらうらうらうらう

▲内遣はするともよふる所の一切のあすこを
 討つてあふよやくをえしすうくとあふきふす
 然るゆゑのくるをせしめ入くす所はう。標はよく
 て家たあすともよふる所のいふくつてせん
 こゝろひあるものあふらる。又持病のある人
 この世をぬるるとまふす人目あをやく灸針薬
 のらひてとまふる。

▲標あひのていぬをよふえきか社会大きよ
 又あす人のあはれじひあはすところとたひん
 せんよゆうのあふるとあふる。又脈とひらうと
 見る所の男女とのおは合しとよろこびとあを
 目けてまふ人のあらう。くせえまくとけみ
 比とあふ人のそのまのまへに世とあをす人ぐ大
 きよせんよゆうするものひらう。目けてあはれ
 大らくあはれすうとく。

▲うをぬるるといふよふる所のあふる。あはれ
 ありてあはれすうのあはれすべし。目けてあはれつと
 虚恋の人のあはれすのあはれとあはれすべし。あはれ

いんげん

三

あがらぬ女をよびて一かゝるものなるをいふは
あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは

▲治を具するにやむるものなるをいふは
舟二の舟一かゝるものなるをいふは
つびるすすむるにやむるものなるをいふは
あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは
あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは

▲あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは
あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは
あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは
あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは
あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは

▲あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは
あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは
あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは
あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは
あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは

あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは

あつと云ふはなほ一かゝるものなるをいふは

あてはくし〜と〜す〜備及具ふり〜と〜
みえん〜あるひ〜と〜する〜
流けてあるはあす〜又〜
まある〜と〜みす〜
るあやらぢれとす〜

よき〜し〜瓜き〜と〜
あ〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜

▲とびくあ〜と〜と〜と〜と〜
と〜と〜と〜と〜と〜
と〜と〜と〜と〜と〜
▲独見物する〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜
〜と〜と〜と〜と〜

とらふ

五三

いしやん... 五十四

のふり入とあるが... 大くびーやのしき... まろ

▲種^{たね}あけりしめ... 帯^{おび}あ入り... お

▲あくの指^{さし}りめ... ま

さく... 松竹^{しょうちく}のき... こ

いす人... けい... こ

▲五^ごの... けい... こ

あめ... 五十四

はんぐくやう一ちう一女人のゆゑに利をすくは
そのやう二箇のじ一かゝるもはまきりぬ

▲たゞに中^{ちゆう}のての^てはゆゑにふくせにまをくた
けのたよるはまきりぬち^ちはまきりぬ

▲二箇の着^きあひまはまよ入とまが男^{おとこ}女^{めづ}のふた
まふはまきりぬ一ちう一まきりぬ

一ん世^よあまきりぬ一ちう一まきりぬ

▲ゆゑのちちあまきりぬ一ちう一まきりぬ

まよれまきりぬ一ちう一まきりぬ

おうたまきりぬ一ちう一まきりぬ

▲まきりぬ一ちう一まきりぬ

▲まきりぬ一ちう一まきりぬ

まきりぬ

まきりぬ

中の目う人ふらむしるものも観^{かん}者^{しや}かへん^んとて
▲あたこらぬゆきふまむが男女とのふたきふは
念^{ねん}よりこらてはむくむくはぬをむかひらひ
するふらるとあるべし—スらくはぬまらやとて—
▲富^{とみ}のあふせむるぬらり又の法^{ほふ}—中^{ちゆう}ぶらむその
ふらあひひようくむる金^{かね}ぬらうけ利^りえん^{えん}とある
といえふとむむぢちう—きやよせむんぬら
むらり又のらふあひぬそん—つらむと—ま
ぶんけ—もむんぬん—ん—とて—

▲何^{なに}ふらぬまのゆきぬらむく—あむとあひむその
ゆきぬらふまを—おぼ^{おぼ}するとむらぬら一切^{いっけつ}らうのく
ゆんはけ^け—むらむらぢぢあひぬらぬ—ぬらぬ—
—ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—
ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—
▲あひむのむらぬゆきふまむが奉^{ほう}中^{ちゆう}こむら
のらちあてぬぬん—ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—
ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—
ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—ぬらぬ—

ゆきぬらぬ

ぬらぬ

あてにまじふあしをひすべくくはひきりかてい
 又賣買するところへは一切の事をおまをばして
 まてその養生くうしめんしめよんてい百
 ぶ一とらう入くうしめきり一は念のうし

▲様をたのめては張ゆえよるゆりをんしつた
 りぬすてあしをよするゆるんゆうあをすか
 ねぐひのぢみゆもかきせのるからこせとあ
 あしめくは遠いんがーどひゆうた辰井ゆ
 とたの一切の事おかし申すくらく入てい

▲命分せえすたのていぬゆえよるぬがゆゆも
 そろくとまを出世のちらびくたとまをい
 こやあがうまのふあゆひまるとゆうとす
 ドまうのあふするとたかすくかゆすよねが
 ひるにゆうしめするん中既天玉おすつてはし
 ▲万歳の舞てのぬゆえよるゆりからんらふ
 くらみあしひるゆあぐーしめをーしめ
 孝の万の供養くあゆゆうそのまをきつてい
 くあがふふんくのりあゆゆゆゆたあふ

るるすくやーぢらぢんけーとまを成成りてー
▲食摘しきとくはくごくといれふふえまが待まちかそそ奉ほうか
えんくまろーんーゆり口くちが傍そばはるるまですん
く世よ民たみとのよはひえんは合あーひてるーやうん
せんをさよく人ひとよを種たねまぐくまろるうーごる
る男女なんにょとのよひまら月つきまち成なりてー

▲福ふく引ひきはするといえふふくまが男おとこ女めづとのよは合
ーこひて来きたうー成なりらう又また水みづるい成なりて
ること成なりはるま奉ほうまをうん成なりひーおしおのます

るまごくー利りう入い成なりあるまやちうー福ふく小せう金きん限げん
成なりひためていなるまをらうーうーまののひさふ
る成なりたがあつこまおちらひまーはーみくは
▲三さん葉はもら成なりひまふふる母ははが成なりるひのまみま
るうあふても影かげおあひひりあふた成なりるま
あるぢらーちうーあうーあてあて成なりたあて
かんーふら成なりらうまふこーいんてあてあて
中なかもあふーはーまのあふた成なりるまのま
今いまらう成なりらまのまあまぢらー

かの入成

▲七種のしんかふをよみむづだんトはなす
 こけと^つ 御^みを食^くすこととんるとはく男女とのふ
 無^ち痛^いあしとそひとよまう入^いはひていふむづ
 物^{もの}のたするはたとあはたふおれう入^いあそまのび
 ありてんおれうしあひぬーはのあひのうり
 えんぐんはひあひぬー
 ▲たぬら^{たぬ}御^みのあひぬとあひぬのあひぬの
 あひぬのあひぬのあひぬのあひぬのあひぬの
 ちりいびあひぬのあひぬのあひぬのあひぬの

まんがしぬー

▲神^{かみ}のあひぬとあひぬのあひぬのあひぬの
 えるとたひあひぬのあひぬのあひぬのあひぬの
 くのはひのあひぬのあひぬのあひぬのあひぬの
 がひぬのあひぬのあひぬのあひぬのあひぬの
 まんがしぬー
 ▲清^い後^ごのあひぬとあひぬのあひぬのあひぬの
 まんがしぬーのあひぬのあひぬのあひぬの
 まんがしぬーのあひぬのあひぬのあひぬの
 まんがしぬーのあひぬのあひぬのあひぬの

その船にりまておまがすを。いふうまのめ。さ
よまをえんてこまがめよしてまへんらるるめ。こま
ぐくまをまてて。まへんがのぐまをいひひか

○吉夢と祭とめる傳いふ

●まへんをまてて。まへんがのぐまをいひひか
一切のまをまてて。まへんがのぐまをいひひか
うまがめ。いひひか。まへんがのぐまをいひひか
まへんがのぐまをいひひか。まへんがのぐまをいひひか

まのうへにゆえをまてて。まへんがのぐまをいひひか
うまがめ。いひひか。まへんがのぐまをいひひか
とまへんがのぐまをいひひか。

○ま祭とのりよゆうの秘傳ひえん

神酒かみさけ へあづき餅うづきもちの。月のうま。まへんがのぐまをいひひか
他。まへんがのぐまをいひひか。まへんがのぐまをいひひか

あひひか。まへんがのぐまをいひひか。まへんがのぐまをいひひか
うまがめ。いひひか。まへんがのぐまをいひひか

まへんがのぐまをいひひか

ひえん

こゝろんくまへー！とまへく〜秘の付ふその疾
うをほす〜とまへく〜秘の付ふその疾

○竹野ゆきと朝も国をなむ秘傳

今秘のついでにゆきと朝も国をなむ秘傳
ゆきと朝も国をなむ秘傳
〜のついでにゆきと朝も国をなむ秘傳
そのついでにゆきと朝も国をなむ秘傳
ゆきと朝も国をなむ秘傳

ゆきと朝も国をなむ秘傳
ゆきと朝も国をなむ秘傳

○吾夢の秘傳抄

●美夢のてんとつひかゆげんしんぐするおの秘傳
のちゆげんか先祖の美とえよをせんあ〜このあづ
けあ〜せく〜ゆげんふんせり〜ゆげんあ〜このあづ
ち美夢あ〜このあづ
●美夢の秘傳抄ゆきと朝も国をなむ秘傳

ゆきと朝も国をなむ秘傳

いんげん豆 11

と縁りやう海すまゝ一くあせく一とよく一とよく
ゆえさめく一のちだちド免あさそのゆゆよくんあ
あがくゆるゆゆゆ実^ち愛とらふあをこのゆゆん
きりあめく一とよのうちふまろ一あつ

●ゆゆの信とらふゆゆんとらふああゆゆゆ
ひん人のちる一とよゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
るゆゆあめゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆ一とよゆ

●^{きん}虚^ま者のでんとらふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

あるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
すべくはあゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
あやとゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

●^ぎ難^い者のでんとらふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
くの甘んゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

見徳夢吉

いゆえんのうぢやんハワづつていびりかて
 のとせいのちとあくの(一)(二)(三)のちあひ
 一切のいあーのちあひくくちあひ

宝珠 百少	月輪 六百 六十六	龜 一万	富士 三音 九十一
大黒 十一 七千	星 二十八	門松 十一 八千	雁鳥 二千 四十八
龍 五百 五十五	白鬚翁 千 十一百	竹子 二千 四	茄子 十三 一百
蛇 五十五	米俵 十八	日輪 三音 三十三	鶴 一千

尻目綱 七百 五十三	扇 十二	鯛 二百 三	一切獸 四百	百足 百
破麻布 八百 十五	箱合扇 百 二十四	一切魚 三七	諸鳥 二百	獅子頭 六百 六十六
鏡餅 四百 五十八	木實 四十二	熨大計 五百 八十五	船 九百	白馬 二百 七十三
銚子 百	琴 十 三	泉臺 二百	鯉 三百 六十	牛 四百 七

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index. The text is written vertically on the right page of the manuscript. It includes several lines of text, some starting with circled numbers (e.g., ①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨, ⑩, ⑪, ⑫, ⑬, ⑭, ⑮, ⑯, ⑰, ⑱, ⑲, ⑳, ㉑, ㉒, ㉓, ㉔, ㉕, ㉖, ㉗, ㉘, ㉙, ㉚, ㉛, ㉜, ㉝, ㉞, ㉟, ㊱, ㊲, ㊳, ㊴, ㊵, ㊶, ㊷, ㊸, ㊹, ㊺, ㊻, ㊼, ㊽, ㊾, ㊿). The text appears to be a list of names or titles, possibly related to a collection or a set of documents.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index. The text is written vertically on the left page of the manuscript. It includes several lines of text, some starting with circled numbers (e.g., ①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨, ⑩, ⑪, ⑫, ⑬, ⑭, ⑮, ⑯, ⑰, ⑱, ⑲, ⑳, ㉑, ㉒, ㉓, ㉔, ㉕, ㉖, ㉗, ㉘, ㉙, ㉚, ㉛, ㉜, ㉝, ㉞, ㉟, ㊱, ㊲, ㊳, ㊴, ㊵, ㊶, ㊷, ㊸, ㊹, ㊺, ㊻, ㊼, ㊽, ㊾, ㊿). The text appears to be a list of names or titles, possibly related to a collection or a set of documents.

どかくのどくするどかか^{ゆり}あまきま^まふ^ゆ
徳をあらふすゆあり

夢合延壽袋大成終

書籍製本發兌

三條通柳馬場東入

辻本仁兵衛

京都

四條通御旅町

辻本儀兵衛

書肆

柳馬場通三條下ル

辻本九兵衛

土久

